



① (上) 黄鉄鉱 (下) 方鉛鉱
坑道周辺で見つけた鉱石

② 坑道内部：坑道入口から撮影。天井までの高さは約1・6メートル。壁面には掘った際の道具の跡が残る

③ 坑道入口：坑道の状態は良い。写っているのは坑道跡まで案内していただいた村上修氏



奥州遺産

―ときを越え

受け継がれるもの―

しづたまざわに
渋民沢Ⅱ遺跡

第130回

Ⅱ 胆沢若柳字渋民沢Ⅱ

奥州湖から南西約6キロの地点に渋民沢Ⅱ遺跡は位置する。

この遺跡は、近世の鉱道跡、寺跡であり、周辺は金山沢とも呼ばれ、江戸時代前半には、銀や鉛を採掘していた。付近には千軒原という地名が残り、鉱山で働く人々が暮らす町があったという。

近代には、若柳鉱山として鉛、亜鉛、硫化鉄鉱を採掘していた。

現在でも入口が見える坑道跡が数カ所あり、そのうちの一つは幅1メートル弱で、ノミの跡が残ることから、近世の坑道跡と思われる。壁面には細かな水晶がついており、金属鉱石はみられない。

周辺には黄鉄鉱や方鉛鉱が散布していて、江戸時代に鉱山で働く人々で賑わっていた当時をしのばせる。

※坑道までの道は、崩落箇所や急斜面が多く危険です。むやみに近づかないようにしましょう

広 告